

第6学年社会科学学習指導案①

I 単元名 「室町文化」

II 単元の考察

1 児童の実態(略)

2 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のエ「京都の室町に幕府がおかれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること」を主なねらいとする。

室町文化を代表する金閣や銀閣は、室町幕府将軍足利氏によって、政治的あるいは文化的な力を示すものとして建てられたものである。また、国宝や世界文化遺産として大切に保護され、今もなお多くの人々に親しまれている。このような足利氏とそれにかかわる文化遺産について、「なぜ」で始まる学習問題を設定し、それを解決する問題解決的な学習活動を通して、子どもたちは、金閣や銀閣が建てられた背景にある足利氏の働きや世の中の様子との関連性や、今の生活文化に直結する要素をもつというよさについて考えることができる。

このことは、室町文化が当時の人物の働きや世の中の状況の影響を受けていることや、室町時代の生活文化が、実は自分たちの生活ともかかわっているという室町文化のもつ歴史的事象の意味について考えることにつながるものである。

このような学習をすることによって、歴史的事象の意味について考える力が育ち、我が国の歴史や伝統を大切にする態度につながると考える。

3 教材の系統(略)

4 指導方針

本単元の学習は、問題解決的な学習活動で行う。子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにする支援として、歴史学習ガイドを用意する。子どもたちは必要に応じてそれを参考にしながら学習を進める。また、「なぜ」で始まる学習問題を設定し、それを追究する活動とする。

(1) つかむ過程

- 金閣と銀閣の写真資料を提示し、それを比較する活動を通して疑問に感じたことを基に、歴史学習ガイドの文型を参考にさせながら「なぜ」で始まる学習問題を設定する。
- 「なぜ」に対する予想を立て、何をどのように調べたらよいか計画を立ててから調べることにする。なお、歴史学習ガイドを参考にさせながら、ここで立てた予想は調べ学習を進める途中で変えてよいことや、新たな根拠となる事実が見付からなかったときは予想を立て直さなければならないことを伝える。

(2) 追究する過程

- 単元の目標にせまることのできる学習活動になるように、子どもたちがノートに書いた予想をあらかじめ把握しておき、必要に応じてコメントを書いておく。
- 調べる計画を立てる際は、調べる項目や方法について子どもが考えやすいように、歴史学習ガイドを参考にさせたり、項目や方法について早く考えられた子どもの記述を取り上げたりしながら考える。
- 根拠をもって考えることを身に付けさせるために、当初の予想を変えるときも、変えた根拠となる事実を必ず記録するよう、歴史学習ガイドを活用して伝える。また、どのように自分の考えが変わってきたか振り返ることができるように、予想を変えた場合でも、それまでの予想の記述を消さずにおくことも伝える。
- すべての子が調べた結果をノートに記述できるように、調べる作業が止まっている子には、資料が載っている場所や資料の見方についてアドバイスする。
- 交流の場面では、必要に応じて三～四人程度の小グループを編成し、自由な雰囲気の中で自分の考えを表現しやすい場を設定する。

(3) まとめる過程

- 小グループでの交流を終えて、話し合ったことを発表し合う前に、子どもたちの考えとその根拠の関係をノートから把握しておき、似ている考えをもった子から順に指名できるようにしておく。
- 前の自分の考えを振り返ったり、自分の考えの変容を自覚したりできるように、ほかの小グループの考えを聞いた後に自分の考えが変わる場合でも、それまでの自分の考えは消さないことを歴史学習ガイドを活用しながら確認する。また、交流を終えて自分の考えの根拠が増える子は、それまでの根拠は消さずに書き加えることを確認する。
- 今まで見逃してきた、室町文化が今の日本文化の基である根拠をたくさん見付けるよう促す。
- 室町文化がどんな文化と言えるか書く際は、現代日本の生活文化とのかかわりについて触れるように伝える。

III 目標

室町時代の代表的な建造物である金閣・銀閣やそれを建てた足利義満や義政について調べることを通して、今の日本につながる室町文化が生まれたことが分かる。

IV 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
義満や義政の働きや金閣・銀閣などの代表的な文化遺産に関心をもち、意欲的に予想を基に調べ、追究しようとしている。	金閣や銀閣が建てられた背景や、銀閣や東求堂の良さについて根拠を示しながら考えたことを、表現している。	資料を基に、予想の根拠となる事実を調べて記録している。	義満や義政の働きや文化遺産を通して、今の日本につながる室町文化が生まれたことを理解している。

V 指導計画 (略)

VII 本時の学習

第1時

1 ねらい

金閣と銀閣の写真資料を比較することを通して「なぜ」で始まる学習問題を設定し、それに対する予想を立てることができる。

2 準備

金閣と銀閣の写真、教科書、ノート、資料集、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 金閣と銀閣の写真資料を比較して、気付いたことを発表する。 【一斉】 ・金閣は金色、銀閣はこげ茶色 ・金閣は新しく、銀閣は古い	5	○時間をかけすぎないように、違っていることは何か、どのように違うか発問し、簡潔に板書する。	
追究する	2 学習問題を設定する。 ① 疑問に思ったことを書く。 【個別】 ・屋根の上の鳥は何だろう。 ・なぜ、銀閣なのに銀色でないのか。 ② 疑問に思ったことを発表し、学習問題を設定する。 【一斉】 ・なぜ、屋根に鳥が乗っているのか。 ・なぜ、金閣は金色なのに、銀閣は銀色でないのか。 ・なぜ、名前が似ているのにこんなに違うのか。	20	○疑問に思うことが書けるように、金閣と銀閣が、両方とも足利氏によって建てられたこと、同じ室町時代の建築であったこと、外観も上層の窓の形が似ているなど、二つの共通点を確認し、相違点の隣に板書する。 ●相違点と共通点を比べて疑問に思ったことをノートに書くよう指示する。 ●文化遺産を建てた人物の思いや当時の世の中の様子との因果関係について追究することにつながるように、歴史学習ガイドを参考に「なぜ足利氏は、○○したのか。」という文型を提示して、疑問を基に学習問題を設定する。 ○ねらいにせまることのできない疑問についても、時間に余裕があれば個人で調べてみるよう促す。	【思・判・表】 <おおむね満足> ○「なぜ」で始まる学習問題を設定し、自分なりの予想を立てている。 <十分満足> ○「なぜ」で始まる学習問題を設定し、根拠に基づいた予想を立てている。(ノート)
	なぜ、足利氏は金閣を金色にしたのに、銀閣を地味にしたのか。(学習問題例)			
	3 予想を立ててノートに書く。 【一斉 → 個別】 ・金閣を建てたところは足利氏の力が強かったけれど、銀閣のころは弱くなったから。 ・金閣を立てた足利氏は派手好きだったが、銀閣を立てた足利氏は地味なのが好きだったから。 ・金閣のころは派手なものがはやっていただけ、銀閣のころは地味なのがはっていたから。	15	●予想を立てやすいように、歴史学習ガイドで予想の立て方を確認する。 ●ここで立てた予想は、調べ学習を進める途中で変えてよいことを伝える。新たな根拠となる事実が見付からなかったときは、予想を立て直さなければならないことも伝える。 ○なぜその予想を立てたのか、その根拠も分かる範囲で書くように伝える。 ●発表に備えてノートの書き方も確認しておく。	
まとめる	4 友達の立てた予想を聞く。 【個別】	5	○予想を立てられない子が参考にできるように、何名かに発表するよう促す。	

第2時

1 ねらい

歴史学習ガイドを活用しながら調べる計画を立て、足利義満、足利義政、金閣、銀閣について調べ、ノートに記録することができる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目と方法
つかむ	1 調べる計画を立てる。 【一斉】 ・足利氏が何をした人か調べる。 →教科書 ・銀閣や金閣がどんな建物なのか調べる。 →教科書、資料集 ・世の中の様子を調べる。 →教科書、年表	10	○ノートに書いた予想をあらかじめ把握しておき、単元の目標にせまることのできる調べ活動になるようなアドバイスのコメントを書いておく。 ●調べる項目や調べる方法について考えやすいように、意図的に選んだ児童の予想を取り上げ、クラス全体で確認する。その際、歴史学習ガイドを参考にしよう伝える。 ○見通しがもてるように、活動時間を伝える。	
追究する	2 教科書や資料を使って調べ、分かったことを記録する。 【個別】	30	●調べたことから、自分の予想が正しいかどうかを考えることが目的であることを確認する。 ●調べたことから予想が間違っていると気付いたときは、予想を変えることを再度確認する。その際、新しい予想に変えた根拠となる事実も必ず記録するよう伝える。 ●自分の考えの変容を確認できるように、予想を変えても、ノートの記述を消さないことを確認する。 ●金閣・銀閣の特徴がつかめるように、寝殿造の写真や現代の和室の写真を渡しておき、比較しながら相違点や共通点を書くように促す。 ●分かったことを交流する活動で使えるように、資料名やページなども必ず記録しておくよう促す。 ○調べ学習がスムーズに進むように、個々のつまづきに対応して、資料が載っている場所や資料の見方についてアドバイスする。 ○何をどのように調べればよいか迷っている子には同じような予想を立てた子の様子を見てもよいことにする。 ●言葉の意味が分からない子がすぐに調べられるように歴史用語集を用意しておくと共に、周りの友達や教師に聞いてもよいことにする。	【技能】 <おおむね満足> ○予想の根拠となる事実を調べて記録している。 <十分満足> ○複数の事実を根拠として記録している。 (ノート)
まとめる	3 基本的な知識を確認する。 【一斉】	5	○義満が京都の室町に幕府を移し、金閣を建てたこと、8代将軍義政が銀閣を建て、東求堂の部屋のつくりが書院造と呼ばれていること、室町幕府が続いた約240年間を室町時代と呼ぶことについては、基本的な知識として全員で確認する。	

第3時

1 ねらい

前時で調べたことを基に分かったことを交流することを通して、金閣や銀閣が建てられた背景について考え、表現することができる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目と方法
つかむ	1 自分の予想を確認し、発表の準備をする。 【個別】	10	●根拠に基づいた発表ができるように、歴史学習ガイドを参考に「私は～と考えます。資料に○とあるからです。」という発表用の文型を示す。	
追究する	2 分かったことを交流する。 【小グループ → 一斉】 ・義満が、守護を従えて南北朝の争いも治め、貿易で利益を上げるなど最強の将軍だったから、力を出すために金ぴかの金閣を建てた。	30	○予想に対する自分の考えに自信がもてるように、意図的に、同じような考えをもつ者によって小グループを構成する。 ●友達の考えと自分の考えを比較して、自分の考えに自信をもったり、付け加えたりする活動であることを確認する。	【思・判・表】 <おおむね満足> ○金閣や銀閣が建てられた背景について、調べたことを根拠に表

	<ul style="list-style-type: none"> ・義政は、守護大名が力を伸ばし、応仁の乱が起きるなど、力が弱かったので地味な銀閣しか建てられなかった。 ・政治から逃げていたのだから、落ち着いた雰囲気でも過ごしたくて、銀閣を地味にした。 ・義政は文化に力を注いで銀閣を建てたのだから、銀閣が地味なのは義政が地味好きだったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ほかの小グループの異なる予想に気付くように、小グループで交流した内容を全体に広げる。 ●しっかり相手の言うことを聞けるように、聞いたことを基にノートに書き加える時間を取る。 ○銀閣も、金閣にならぶ価値のある文化遺産であるという考えにつながる発言がないときは、こちらから、なぜ国宝に指定されているのかと発問する。 ○国宝について簡単に説明する。 	<p>現している。 (発言・ノート)</p> <p><十分満足> ○金閣や銀閣が建てられた背景について、複数の根拠を挙げて表現している。 (発言・ノート)</p>
まとめ	<p>3 なぜ、国宝に指定され、多くの人が訪れるのか、予想する。</p> <p>【一斉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀閣は、落ち着いた渋い雰囲気があるから、40代以降の人に人気があるのではないか。 ・東求堂は書院造という、和室の基になったつくりなので、国宝になったのではないか。 	<p>5 ○ 銀閣のよさについて調べる意欲をもたせるために、現在でも、10代を中心に若い人は金閣に多く訪れているが、40代以降の人は、金閣よりも銀閣に多く訪れている統計資料を示す。</p>	

第4時

1 ねらい

銀閣や東求堂、雪舟の水墨画などについて調べ、なぜ銀閣や東求堂が国宝に指定され、多くの人が今も訪れるのかについて、小グループで協力しながら調べることができる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目と方法
つかむ	<p>1 銀閣のどこがよいのか調べる。</p> <p>【個別】</p>	10	○銀閣のよさについてより広い視野からとらえられるように、銀閣や東求堂以外の室町時代を代表する様々な文化との共通性に目を向けるよう促す。	
追究する	<p>2 銀閣がなぜ大人の人に人気なのかまた国宝なのか、意見交換しながら調べる。</p> <p>【小グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書院造と雪舟の水墨画、竜安寺の石庭は、色が少ないところや、落ち着いた雰囲気が似ている。 ・茶や、床の間に絵や書を掛け生け花を飾るなど、静かできれいで日本らしいものばかり。 ・雪舟の水墨画は部屋の飾りとして人気があったとあるので、落ち着いた雰囲気がはやっていたのだと思う。 ・教科書に東求堂の写真を見ると、畳が敷き詰められていたり、障子があつたりして、今の和室がこのときできたので国宝ではないか。 ・銀閣や東求堂は、日本らしいものの基になっているから、大事。だから国宝なのではないか。 ・もし銀閣や東求堂がなかったら、和室は、今ないかもしれない。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換をしながら、根拠を確かめたり自分の考えを変えたりしやすいように、生活班を規準にした三～四人程度の小グループを編成する。 ○まずは、銀閣や東求堂以外のものとの共通点について分かったことを発表するよう伝える。その後、なぜ大人の人に人気なのか、また、国宝なのかについて考えるように伝える。 ●すべての班をまわり、根拠のある意見交換になっているか、また、根拠となる事実を記録できているかを確認し、思い付きだけの予想になっている班には、その根拠となる事実を協力して探すよう促す。 ○書院造が今の和室の基になっていることに気付いていない班には、今の和室の写真資料を渡す。 ○庭園や水墨画、茶の湯や生け花、能といった室町時代の文化を代表するものが、銀閣や東求堂と共通する静かな美しさをもっていることに気付いていない班には、教科書や資料集の資料を指し示しながら、共通点がないかを聞くなどして気付くようにする。 	<p>【技能】</p> <p><おおむね満足> ○銀閣や東求堂のよさについて、根拠となる事実を調べて記録している。 (発言・ノート)</p> <p><十分満足> ○銀閣や東求堂のよさについて、今の暮らしに伝わるものがあるからよいという考えの根拠となる事実を調べて記録している。 (発言・ノート)</p>
まとめ	<p>3 話し合っ分かったことを、自分のノートに書き留める。</p> <p>【個別】</p>	10	●自分の予想が変わった場合は、変わった根拠を必ず書いておくように伝える。	

第5時

1 ねらい

前時に小グループで話し合ったことをクラス全体で共有すると共に、今までの学習で取り上げなかった事象との関連について考え、室町時代に現代日本の生活文化の基ができあがったことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目と方法
つかむ	1 小グループをつくり、前時に調べたことを発表する。 【小グループ】	5	○前もって、子どもたちの考えとその根拠の関係を児童のノートから把握しておく。それを基に、異なる予想や根拠をもつ子どもから構成された小グループになるよう考えて、提示しておく。 ○銀閣や東求堂のよさについての予想と根拠を発表することを伝える。 ●ガイドを使って、発表用の文型を再確認する。	
追究する	2 小グループで話し合ったことを発表する。 【一斉】 3 ほかの人の考えを聞いて、自分の考えを再検討し、必要に応じて修正する。 【個別】 4 室町文化が現代日本の文化の基であることを確認する。 【一斉】	15 5 10	○似ている予想をもった子から順に指名する。 ○仲間分けして、キーワードを板書する。 ・優れた技術でつくられた庭 ・簡素な美 ・日本文化らしい ●それぞれの考えを共有できるように、質問を受けたり、話し合ったりする。 ●自分の考えが変わる子は、今までの自分の考えを消さないよう確認する。 ●自分の考えの根拠が増える子は、書き加えることを確認する。 ○室町文化が現代日本の文化の基である根拠となるものをたくさん見付けるよう促す。 ○能の映像を短時間見せ、簡潔に説明する。 ○雪舟が日本で最初に外国の切手になったことを紹介する。 ○民衆から今に伝わる文化が生まれた背景には深入りせず、発展的な内容として自主学習してみるように伝える。	【知識・理解】 <おおむね満足> ○室町文化が、今の日本につながる文化であることが分かっている。 (ノート) <十分満足> ○複数の根拠となる事実を挙げ、室町文化が今の日本につながる優れた文化であることが分かっている。 (ノート)
まとめる	5 室町文化はどんな文化と言えるか、分かったことを書く。 【個別】	10	○現代日本の生活文化とのかかわりについても書くよう全体に伝える。	

第6 学年社会科学学習指導案②

I 単元名 「新しい国づくり」

II 単元の考察

1 児童の実態(略)

2 教材観

本単元は、学習指導要領第6 学年の内容 (1) のキ「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」を主なねらいとする。

本単元で扱う期間は、700年もの間続いてきた武士による支配(封建社会)が終わり、近代国家になっていくという、日本の歴史の中でも重要な転換期である。圧倒的な威力を当時の人々に示した黒船の来航は、当時の政治や社会、人々の思いや考えに対する影響が大変大きいもので、日本の開国とその後の貿易開始のきっかけになっただけでなく、幕府に対する不満を高め、その威信を低下させ、倒幕運動へとつながり、幕府が滅亡して明治政府が成立する結果をもたらすことになった。また、廃藩置県や四民平等などの改革によって政府の強力なリーダーシップの下で国民を一つにまとめ、政府主導で欧米の文化を積極的に取り入れつつ富国強兵政策を進めたことは、資本主義経済の基礎を育て、欧米諸国に負けない強く豊かな国づくりを進めて、早く欧米諸国に追い付こうという、明治政府の強い意志が感じられるものである。

このように、黒船来航から明治維新への動きや明治政府の政策などの歴史的な事象は、それぞれ目的や

因果関係、影響や役割で関連付ける学習が可能であり、どのように関連しているのか考えることは、歴史的事象の意味について考えることにつながるものである。

このような学習をすることによって、歴史的事象の意味について考える力が育ち、我が国の歴史や伝統を大切にすると態度につながる。と考える。

3 教材の系統(略)

4 指導方針

本単元の学習は、「なぜ型学習」で行う。なぜで始まる学習問題について予想と検証を繰り返す活動により得た複数の結果を、まとめる段階で関連付ける学習である。また、子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにする支援として、歴史学習ガイドを用意する。子どもたちは必要に応じてそれを参考にしながら学習を進める。

(1) 「つかむ」過程

- 複数の資料を提示し、それを比較する活動を通して疑問に思ったことを基に、歴史学習ガイドの文型を参考にさせながら「なぜ」で始まる学習問題を設定する。
- 「なぜ」に対する予想を立てる際も、歴史学習ガイドの文型を参考にさせる。なお、ここで立てた予想は調べ学習を進める途中で変えてよいことや、新たな根拠となる事実が見付からなかったときは予想を立て直さなければならないことを伝える。

(2) 「追究する」過程

- 調べる時間を短縮するために、調べる資料はなるべく一つにまとめ、それを中心に調べるよう促す。
- 歴史学習ガイドに歴史用語集を付け、子どもたちがつまずくと予想される語句について簡単に調べられるようにしておく。
- すべての子が調べた結果をノートに記述できるように、調べる作業が止まっている子には、資料が載っている場所や資料の見方についてアドバイスする。
- 根拠をもって考えることを身に付けさせるために、当初の予想を変えるときも、変えた根拠となる事実を必ず記録するよう、歴史学習ガイドを活用して伝える。また、「まとめる」過程で以前の自分の考えを振り返って参考にすることや、どのように自分の考えが変わってきたか振り返ることができるように、予想を変えた場合でも、それまでの予想の記述を消さずにおくことも伝える。
- 個々の活動を原則とするが、座席は小グループの形にして、必要に応じて相談したり交流したりできるようにする。
- 各時間の終末に、その時間に分かったことを、当時の人々（政府）の思いや考えを含めて、ノートに書き留めておくよう指示する。

(3) まとめる過程

- 学習問題は、「どのような」で始まる表現にして、これまで学習してきた内容を関連付けてまとめる学習活動になるようにする。
- 関連付ける際は、原因と結果の関係、方法(政策)と目的の関係、あるいは共通点はないかという視点で一時間ごとの学習を振り返り、当時の人の思いや考えを関連付けるようにして、全体として明治政府がどんな国づくりを進めたのかについて、自分の考えをもてるようにする。

III 目標

黒船の来航、明治維新、富国強兵、文明開化などについて調べ、明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を積極的に取り入れながら、日本の近代化を急いだことが分かる。

IV 評価規準(略 研究報告書参照)

V 指導計画(略 研究報告書参照)

VII 本時の学習

第1時

1 ねらい

江戸幕府がペリー率いる米国艦隊の圧倒的な威力に押され、武力を行使せず開国に至ったことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展 開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 「米船渡来旧諸藩士固之図」と「日本遠征記」挿絵とを比較して、学習問題を設定し、予想する。 【一斉、個別】	5	○ペリーの様々な肖像を提示して、ペリーについて興味関心をもつようにする。 ●黒船の来航に対し、戦う準備をしている「米船渡来旧諸藩士固之図」と、黒船甲板上で幕府代表团とペリー一行が食事をしている「日本遠征記」の挿絵とを比べて、武士たちの様子の違いに着目して学習問題を設定するよう促す。 ○資料はプロジェクタで大きく投影し、部分的に拡大するなどして、緊迫している様子と和やかに一緒にいる様子の違いが分かるようにする。 ○戦う準備をしているのは、今まで開国を拒否してきたからであることを確認しておき、和やかに一緒にいることの不思議さに気付かせたい。 ●歴史学習ガイドを使って学習問題の文型を示し、「なぜ」で始まる学習問題になるようにする。	
	なぜ幕府は、アメリカと戦わなかったのか (学習問題例)			
	・幕府は、貿易でもうけたいと思ったから ・幕府は、黒船にかなわないので戦争したら負けると思ったから ・幕府は、前よりも弱くなっているから	5	●歴史学習ガイドを使いながら学習問題とその予想をノートに書くよう指示する。その際、予想は、幕府を主語にして書くように指示する。 ○「黒船がこわかったから」のような予想を立てた児童には、どうしてこわいのかを調べてみるように促して、黒船の威力の具体的な事実を見付けるという方向性を示す。	
追究する	2 予想の根拠となる事実を調べ、予想を変更・修正してノートに書く。 【個別、小グループ】	10	●歴史学習ガイドを使って、調べた事実によって、予想を変更したり修正(二つ以上の予想を組み合わせるなど)したりしてよいことを確認する。 ●歴史学習ガイドの用語集の使い方を示して、調べる時間の短縮化を図る。 ○教科書以外に資料プリントを全員に配付し、黒船と千石船の大きさや、ペリー艦隊と日本側の大砲の数や射程距離の差、黒船が蒸気船であったことについての資料から、黒船が圧倒的な威力と技術力をもっていたことが分かるようにする。	【思・判・表】 ＜おおむね満足＞ ○黒船の威力にはかなわないから仕方なく開国したと考えている。
	3 自分の考えを発表し合う。 【一斉】	15	○発表された考えを内容別に板書して、子どもたちが考えを整理しやすいようにする。 ○貿易をしたいからという考えが発表され、幕府はアメリカと貿易をしたいとは思っていなかったという資料を子どもたちが取り上げなかった場合はこちらから提示し、幕府は威力に押されて仕方なく開国したということが分かるようにする。 ○次時になぜ大政奉還をしたのか考えるときに根拠となるよう、幕府が弱まっていたという予想がなかった場合は、大名たちに意見を聞いたり朝廷に報告したりしたことが、これまでの幕府ではなかったことであることを補足する。	＜十分満足＞ ○黒船の威力や進んだ技術力にはかなわないから仕方なく開国したと考えている。(ノート)
まとめる	4 日米和親条約が結ばれて日本が鎖国をやめて開国したことを確認する。 【一斉 → 個別】	10	○国同士の約束は、条約を結ぶものであること、開国する条約は「日米和親条約」であること、このとき貿易はすぐに始まらなかったが、四年後の「日米修好通商条約」によって、さらに港が開かれ、貿易が始まったことを確認する。 ●本時の最終的な考えを、「幕府は～と考えたから戦うことをやめて開国した。」と書くよう促す。	

第2時

1 ねらい

貿易による物価高で江戸幕府に対する不満が高まり、薩摩藩や長州藩出身の若い武士を中心に倒幕運動が盛んになって、大政奉還につながったことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展 開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 絵「政権を朝廷に返すことを伝える徳川慶喜」と絵「幕末に活躍した人たち」を見て、学習問題を設定し、予想する。 【一斉、個別】	3	○政権の意味を、歴史学習ガイドの歴史用語集で確認し、江戸幕府が政治を行えたのは、形式上、天皇から任されていたからであることや、政権を返すということが幕府をなくすことであることを確認する。 ●幕末に活躍した、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、坂本龍馬らの肖像を紹介し、幕府の人間との違いに気付かせ学習問題を設定する。	
	なぜ西郷隆盛たちは、幕府を倒したのか(学習問題例)			
	<ul style="list-style-type: none"> 西郷は、幕府が弱いと考えたから。 西郷は、幕府に対する不満があると考えたから。 西郷は、幕府では強い外国にかなわないと考えたから。 	7	●歴史学習ガイドを使いながら学習問題とその予想をノートに書くよう指示する。その際、予想は、西郷を主語にして書くように指示する。	
追究する	3 予想の根拠となる事実を調べ、予想を変更・修正してノートに書く。 【個別、小グループ】 <ul style="list-style-type: none"> 幕府が弱いと、強い外国にかなわないから。 貿易が始まり、品不足や物価高になり、不満が高まったから。 薩摩藩や長州藩は外国と戦って外国の力が分かっていたので、幕府では外国に対抗できないと思ったから。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史学習ガイドを使って、調べた事実によって、予想を変更したり修正(二つ以上の予想を組み合わせるなど)したりしてよいことを確認する。 ●歴史学習ガイドの用語集の使い方を示して、調べる時間の短縮化を図る。 ○幕府が弱いと考えたからと予想した子どもには、薩英戦争や下関砲台占領の資料を示し、弱いとなぜ幕府を倒す必要があるのか考えるよう促すことにより、列強に対抗できるようにすることの必要性に気付かせ予想を修正できるようにする。 ○幕府に対する不満があったからと予想した子どもには、物価の上昇の資料を示し、何が不満だったのかを調べてみるよう促すことにより、幕府が決めた開国・貿易が経済上の混乱を招き、結果として攘夷や倒幕へつながったことに気付かせ予想を修正できるようにする。 ○幕府では、強い外国にはかなわないからと予想した子どもには、薩英戦争や下関砲台占領の資料を示し、なぜ西郷や木戸は外国の強さを知ったのか調べてみるよう促すことにより、直接外国と戦った結果、その強さを知り倒幕へ向かっていったことに気付かせ予想を修正できるようにする。 	<p>【思・判・表】</p> <p><おおむね満足></p> <p>○貿易による物価高で幕府に対する不満が高まり、討幕運動がさかんになったと考えている。</p> <p><十分満足></p> <p>○幕府には不満を取める力もなく外国に対抗する力もないことから、倒幕運動が盛んになったと考えている。(ノート)</p>
	4 自分の考えを発表し合い、幕府を倒そうとする運動や世直し一揆が起こった背景は何か考える。 【一斉】 <ul style="list-style-type: none"> 物価が上がり生活が苦しくなり、その原因をつくった外国や幕府に対する不満が高まったけれど、外国はすごく強いと分かっていたので幕府を倒そうとした。 薩英戦争や下関砲台占領で外国と戦いその強さを知ったので幕府のままだと日本が危ないと考えた。 一揆や打ちこわしが多く起こり、幕府や藩ではそれをおさえる力がないと分かっていたので、幕府を倒して新しい政府をつくろうとした。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○発表された考えを内容別に板書して、子どもたちが考えを整理しやすいようにする。 ○幕府が貿易を始めることを許したことが、世の中を混乱させたことを確認し、幕府に対する不満が高まったことに気付かせたい。 ○物価高に気付いた子どもの意見を取り上げ、米価が、貿易の開始した1859年と比べて4倍にも値上がりしていることに気付かせたい。 ○討幕運動の中心であった木戸孝允、西郷隆盛、坂本龍馬だけが倒幕の意思をもっていたわけではないことを確認して、彼らが身分の低い武士出身という共通点に着目させ、幕府に対する不満の中で倒幕運動が盛んになっていったことに気付かせたい。 	
まとめる	5 学習問題に対する自分の考えを改めて書く。 【個別 → 一斉】	5	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の最終的な考えを、「西郷たちは～と考えたから、幕府は政権を朝廷に返してほろんだ」と書くよう促す。 ○再び大政奉還の絵を提示し、慶喜が新しい政府でも力をふるおうと考えていたこと、それが失敗する中で戊辰戦争が起きて旧幕府軍が負けたこと、武士の政治が鎌倉時代から数えて約700年間続いたことを確認して、日本の歴史上の大きな転換期であったことに触れたい。 	

第3時

1 ねらい

明治政府は遣欧使節団を派遣し、欧米諸国の政治や経済の仕組み、産業技術などについての知識を直接得たことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

進	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 明治政府の主要人物図と遣欧使節団の写真を比較し、学習問題を設定し、予想する。 【一斉、個別】	10	○導入で絵「五箇条の御誓文の朗読」と五箇条の御誓文を提示し、明治政府が出発したことを説明する。 ○明治政府の中では天皇が重要な役割を果たしていることに気付くように、絵の中で、明治天皇だけが違う服装をし、畳の特別な場所に座っていることに着目するよう伝える。 ●第2時で確認した、幕末、明治に活躍した人物西郷、大久保、木戸、岩倉の四人中三人が、二年近く日本を留守にした事実気付かせ、学習問題を設定する。	
	なぜ大久保たちは、二年もかけて欧米にいったのか (学習問題例)			
	・大久保は、欧米がどんな様子なのか、知りたかったから ・大久保は欧米の強さを見たかった。 ・大久保は現地で勉強したかった。	5	●歴史学習ガイドを使いながら学習問題とその予想をノートに書くよう指示する。その際、予想は、大久保を主語にして書くように指示する。	
追究する	2 予想の根拠となる事実を調べ、予想を変更・修正してノートに書く。 【個別、小グループ】 ・五箇条の御誓文に、「知識を世界から取り入れ、国の発展を図ること。」とあるので、欧米の進んだ知識を直接学ぶために出かけた。 ・日米修好通商条約は日本に不利な内容で、結んだ幕府を倒してできた明治政府だから、不平等なところをなおす話し合いを目的として出かけた。	10	●歴史学習ガイドを使って、調べた事実によって、予想を変更したり修正(二つ以上の予想を組み合わせるなど)したりしてよいことを確認する。 ●歴史学習ガイドの用語集の使い方を示して、調べる時間の短縮化を図る。 ○教科書以外に資料プリントとして全員に配付し五箇条の御誓文、大久保利通がイギリスの工場の様子を伝えた手紙、日米修好通商条約の条文、このころの欧米諸国の写真資料から、遣欧使節団が欧米諸国の様子を実際に見たことや不平等条約を改正するために出かけたこと、不平等条約の改正については取り合ってもらえなかったことが分かるようにする。	【思・判・表】 <おおむね満足> ○明治政府の指導者たちが、欧米諸国の仕組みや技術の高さを実際に見て学ぶために出かけたと考えている。
	3 自分の考えを発表し合い、遣欧使節団の目的について考える。 【一斉】 ・大久保の手紙では、工場のことが出てくるので、自分の目で欧米の様子を見るためにいった。 ・アメリカは自分で関税を決められるのに、日本は相談しなくてはならないのは日本に不利なので、それを変えてほしいと相談にいった。 ・日本で悪いことをしたアメリカ人でも、日本が裁けないことになると、悪いことをしてもアメリカに逃げたしまうかもしれないから、これを変えるためにいった。	10	○発表された考えを内容別に板書して、子どもたちが考えを整理しやすいようにする。 ○不平等条約の内容は難しいので、日米修好通商条約の条文だけでなく、日本にとってどのように不利なのかを絵図で説明した資料を付け、必要に応じて補足する。	<十分満足> ○明治政府の指導者たちが欧米諸国の仕組みや技術の高さを実際に見て学ぶとともに、条約改正に失敗し、欧米に追い付きたい思いを強めたと考えている。 (ノート)
まとめる	4 大久保が、実際に欧米諸国を訪問してどんな気持ちになったか想像して書く。 【個別】	10	●欧米へ出かけた目的について、大久保らの気持ちを想像して、「大久保」を主語にして書くよう促す。	

第4時

1 ねらい

明治になって、文明開化を進める政府の働きによって欧米の文化が急速に広まり、人々の生活や考え方が大きく変わったことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 絵「明治時代の日本橋付近」と「幕末の日本橋付近」とを比較して、学習問題を設定し、予想する。 【一斉、個別】	5	○色遣いなど表現上の違いでなく、人の姿、乗り物、建物の中から共通点や相違点を探すよう指示して、活動時間が長すぎないようにする。 ○同時期のロンドンの写真を示して、明治になって欧米風に変化したことを確認する。 ●ほぼ同じ場所を描いた、1800年以前の絵、1863年ごろの絵、1881年の絵の三枚を提示して、その共通点や相違点を探し、60年以上差があるのに様子がほとんど変わっていない二枚に対して、18年後の三枚目の絵は、大きく違っていることに気付かせ、学習問題を設定する。	
	なぜ、18年ほどの短い間に急に欧米化したのか (学習問題例)	5	●歴史学習ガイドを使いながら学習問題とその予想をノートに書くよう指示する。	
追究する	2 予想の根拠となる事実を調べ、予想を変更・修正してノートに書く。 【個別、小グループ】 ・貿易が始まって、欧米人を見るようになり、あこがれて真似をしたから。 ・ほかの人より先に変わることや文明開化がいやな人もいたが、明治天皇が見本を示し、それが新聞で伝わったので、一般の人も真似をするようになった。 ・福沢諭吉が「学問のすすめ」を書いて多くの人に読まれたから、人間は平等であることや学問の必要が伝わった。	15	●歴史学習ガイドを使って、調べた事実によって、予想を変更したり修正(二つ以上の予想を組み合わせるなど)したりしてよいことを確認する。 ●歴史学習ガイドの用語集の使い方を示して、調べる時間の短縮化を図る。 ○貿易が始まり、欧米の人たちを見るようになったからという予想では学習が深まらないので、横浜などでは欧米人の居留地があったことを紹介し、なぜ欧米人の姿を見て日本人も欧米化したのか尋ね、予想を修正するよう促す。 ○珍しさから真似をしたなど、当時の日本人が自発的に取り入れたと予想した子どもには、高村光太郎の詩「ちょんまげ」や、明治政府が出した「断髪例」「学制」「改暦ノ詔書並太陽曆頒布」などの資料を示し、文明開化に抵抗を感じる気持ちをもった人がいたことや、明治政府が命令により導入されたことがたくさんあることに気付かせ予想を修正できるようにする。 ○便利だからと予想した子どもには、電信に荷物を結んだ人や誤解から電線を傷付ける人がいたエピソードを教え、一般の人が初めから便利さを知っていたわけでないことに気付かせ予想を修正できるようにする。	【思・判・表】 <おおむね満足> ○欧米化が急に進んだのは、明治政府が積極的に広めようとしていたからであると考えている。 ○欧米化が急に進んだのは、明治政府が積極的に広めようとしたからで、ほかにも福沢諭吉のような欧米の考え方を紹介した人の働きもあったと考えている。(ノート)
	3 自分の考えを発表し合い、文明開化は明治政府や福沢諭吉のような人の働きで進んだことに気付く。 【一斉】 ・明治政府が、生活の仕組みを変えるように命令を出したから、文明開化が進んだ。 ・明治政府が、天皇に率先して欧米の文化を取り入れてもらうことによって、欧米化を進めた ・福沢諭吉のような人が欧米の考え方を本や新聞で発表して広めたので、一般の人にも広まった。	15	○発表された考えを内容別に板書して、子どもたちが考えを整理しやすいようにする。 ○子どもたちが、福沢諭吉の働きを取り上げなかった場合は、福沢諭吉の広めようとした欧米の考え方が、「平等」や学問の必要性であることをおさえる。 ○明治天皇自らの意思というよりも、明治政府の宣伝活動という意味合いが強いことを知らせる。	
まとめる	4 文明開化でどのようなものが広まっていったか確認する。 【個別 → 一斉】	5	●本時の最終的な考えを、「欧米化したのは、～から」と書くよう促す。 ○生活文化だけでなく、制度としても欧米化を進めていたことを確認する。	

第5時

1 ねらい

明治政府が、欧米の制度や技術を積極的に取り入れながら富国強兵政策を進め、欧米に早く追い付こうとしていたことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、資料プリント、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 富岡製糸場の絵と座繰りの写真を比較して、学習問題を設定し、予想する。【一斉、個別】 なぜ政府は、富岡製糸場を建てたのか (学習問題例) <ul style="list-style-type: none"> 政府は、生糸をたくさんつくるために建てた。 政府は、質のよい生糸をつくるために建てた。 政府は、生糸を輸出して、国づくりの資金をかせぐために建てた。 	5	●富岡製糸場が、生糸を生産する工場、政府の建てた官営工場であること、座繰りと機械製糸の違いを確認して、学習問題を設定する。	
追究する	2 予想の根拠となる事実を調べ、予想を変更・修正してノートに書く。【個別、小グループ】 <ul style="list-style-type: none"> 品質のよい生糸をたくさんつくるため。 フランスの技術を学ぶため。 富岡だけではなく、ほかの地域にも技術を教えるため。 3 自分の考えを發表し合い、富岡製糸場を取り上げ、建設・運営の目的が何か考える。【一斉】 <ul style="list-style-type: none"> フランス製の最新式の機械をそろえ、フランス人技師から作り方を学び、品質のよい生糸をたくさんつくることができるようになって欧米のような豊かな国になる。 働く女性は士族の娘で、将来は出身地で製糸工場の指導者になるので、日本中に技術を広めて、欧米のような進んだ国になる。 4 地租改正、徴兵令とその目的について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 地租を定めて地主に税金を納めさせれば、毎年収入が変わる年貢と違って、政府の収入が安定する。 徴兵令を出して、20歳以上の男性に三年間軍隊に入ることを義務付けたことから、軍隊をつくって強い国を目指していたと思う。 	10	●歴史学習ガイドを使って、調べた事実によって、予想を変更したり修正(二つ以上の予想を組み合わせるなど)したりしてよいことを確認する。 ●歴史学習ガイドの用語集の使い方を示して、調べる時間の短縮化を図る。 ○教科書以外に資料プリントを全員に配付し、近代工場を初めて見た女工の驚き、フランス製最新式機械の導入、岩倉具視と同じフランス人技師の月給、女工は士族の娘を各地から選び、フランス人技師から新しい技術を学んで、出身地に帰りその地の製糸工場の指導者になったこと、などを資料として載せて、政府がお金をかけてフランスの技術を導入しようとしていることや、その技術をほかの地域にも広めようとしていることが分かるようにする。 ○女工たちがずっと富岡製糸場で働くのではなく、指導者になるために働いていることに着目させて、富岡製糸場が、欧米の優れた技術を積極的に取り入れてそれを広めるための模範工場であることに気付かせたい。 ○なぜ、政府がお金を出して建てたのか考えるよう促し、急いで近代工業を興そうとしていることに気付かせたい。 ○富岡製糸場の建設・運営が欧米に追い付くための富国強兵政策の一環であることに気付くように、欧米のような国とはどんな国かということまで考えるように促す。	【思・判・表】 <おおむね満足> ○明治政府は、欧米に早く追い付くために、欧米の制度や技術を積極的に取り入れて富国強兵政策を進めたと考えている。 <十分満足> ○明治政府が、欧米に早く追い付くために進めた富国強兵のそれぞれの政策の目的について考え、気付いている。(ノート)
まとめる	5 政策の目的を整理する。【個別 → 一斉】	5	●本時の最終的な考えを、「政府は～のために富国強兵の政治を進めた」と書くよう促す。 ○時間をかけないように、地租改正反対一揆、徴兵のがれの資料をプロジェクタで拡大して写しながら、富国強兵政策に反対する動きがあったことにも触れる。	

第6時

1 ねらい

明治政府は、積極的に欧米の文化を取り入れながら、政府が全国を治める仕組みを整え、富国強兵の政治を進めて、欧米のような豊かで強い国づくりを進めたことが分かる。

2 準備

教科書、ノート、資料集、歴史学習ガイド、PC、実物投影機、プロジェクタ、スクリーン

3 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点(●は研究の手だて)	評価項目
つかむ	1 学習問題を設定する。 【一斉】 明治政府は、どのような国づくりを目指したのか	3	●既習の学習問題とそれに対する自分の考えを、ノートを見ながら振り返り学習問題を設定する。	
追究する	2 四民平等と廃藩置県の内容と目的を確認する。 【一斉】 ・四民平等により、名字を名乗ることや結婚、職業選択が自由になったことや武士は士族という身分になったけれど、刀や名字などの特権が奪われたこと。 ・四民平等だから、国民として国を守らなくてはならないと徴兵令にある。 ・四民平等の目的は、みんなが力を合わせること。 ・廃藩置県にり、大名がいなくなって、全国の県が政府の役人によって治められるようになったこと。 3 これまで学習して分かったことを振り返り、関連付ける。 【一斉】 ① 明治政府がどんな国づくりを目指したのかを考える。 ・欧米のような強く進んだ豊かな国 ② これまでの学習の結果から、欧米のような国を目指した原因となる思いや考えと、そのために何をしたらかを振り返る。 ・黒船の威力にはかなわないと考えたので開国した。その結果、物価高から幕府に対する不満が高まって、大政奉還につながった。 ・遣欧使節として実際に欧米を見て早く日本も追い付きたいと考え、欧米化を急いだ。 ・不平等条約を改正できず、くやしかったので、欧米化を急いだ。 ・欧米のように工業を盛んにして早く追い付くために、官営工場を建てて欧米の技術を学ばせ、欧米と対抗できるように、軍隊をつくるなど、富国強兵を進めた。 ③ 四民平等や廃藩置県で明治政府が全国を治める仕組みをつくったことが、どの思いや考えと関連するのか考える。 ・武士、大名では欧米にかなわない。 ・明治政府の命令を全国で実行するので、早く欧米に追い付ける。	12 15	○四民平等によって、自由になったこと、平等の名の下、武士の特権が奪われたことを確認し、五箇条の御誓文の「みんなが力を合わせ、しっかり政治をすること」という方針の具体化であることを確認する。 ○幕藩体制→版籍奉還→廃藩置県という流れを説明した図を示して、幕藩体制が、幕府と多くの藩で日本を分けて治めていたのに対し、明治政府が直接全国を治める仕組みができたことを確認する。 ●これまでの学習の結果得た自分たちの考えをすぐに振り返られるように、各自のノートにインデックスを付けておく。 ○「欧米のような」というキーワードを落とさないようにして、欧米の文化を積極的に取り入れた明治政府の特色をおさえる。 ●欧米のような国を目指したのはなぜか、きっかけは何だったのかについて発問して、明治政府が近代化を進めたことと、ペリー来航との因果関係に着目させる。そして、第1時～第5時までの「なぜ型学習」の結果(行動の背景となっている思いや考え、目的)を振り返る。その際因果関係や目的と方法の関係に着目させ、板書して整理する。 ○学習問題を振り返る際は、それぞれ時間に学習した歴史的事象である「ペリー来航」「大政奉還」「遣欧使節」「文明開化」「富国強兵」をカードにして提示し、思いや考えと区別できるようにする。 ○日本を一つにまとめて明治政府が治める仕組みと何が関連付けられるのか発問し、近代化を急いでいた政府の思いとを関連付けられるようにする。	【知識・理解】 <おおむね満足> ○明治政府が、欧米の文化を取り入れながら、欧米のような豊かで強い国づくりを目指したことを理解している。 <十分満足> ○明治政府が、欧米の文化を取り入れながら、全国を治める体制を整えて、欧米のような豊かで強い国づくりを急いだことを理解している (ノート)
まとめる	4 明治政府がどのような国づくりを目指していたのか、自分の考えを書く。 【個別】	15	○板書を基に、自分の考えを振り返り、まとめて書くよう促す。	